

平成25年度第2回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議 「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の概要について

平成25年度第2回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」を平成25年11月1日に開催しました。

推進会議には、5名の委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山哲司氏にご出席いただきました。なお、推進会議の概要は、以下のとおりです。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

川北 輝（特定非営利活動法人津市 NPO サポートセンター理事長）

増田 正人（公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター専務理事）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院博士課程医学系研究科生命医科学専攻）

宮本 倫明（「美し国おこし・三重」総合プロデューサー）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸代表理事）

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長）



＜推進会議の進行概要＞

会議の大きな進捗は次のとおり

開会 18:30

戦略企画部長あいさつ

1、推進会議の状況について

- ・第5回推進会議（平成25年度第1回）の概要
- ・新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議（全体）の状況

2、平成26年度当初予算編成に向けての基本的な考え方について

- ・「新しい豊かさ協創5（県民力を高める絆づくり協創プロジェクトシート）」について
- ・事業概要進捗（平成25年度事業計画）

3、共通テーマ

（意見交換）

閉会 20:30

（戦略企画部長あいさつ）

山口和夫戦略企画部長から、今回の会議での目的等について説明いたしました。

1、推進会議の状況について

- ・ファシリテーターの米山さんから平成25年度第1回の概要を説明いただきました。

- ・新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議（全体）の状況を事務局より説明しました。

2、平成26年度当初予算編成に向けての基本的な考え方について

- ・「新しい豊かさ協創5（県民力を高める絆づくり協創プロジェクトシート）」及び事業概要進捗（平成25年度事業計画）について事務局と担当課から説明しました。

委員から出された主な意見は、以下のとおりです。

（「学生」×「地域」カフェについて）

学生の中に特別なスキルのある学生がいることに気づいた。学科や専攻と関係ないところで、違った能力を持った学生や活用できる人材がいると思うので、アプローチは個々のスキルに着目してほしい。大学のサークルに、多様な興味を持つ学生がいる。サークル情報に目を向けてほしい。

（美し国おこし・三重について）

「美し国おこし・三重」の取組が平成26年度に終了するが「障がい者芸術文化祭」と農林水産部が連携できたように、「美し国おこし・三重」から育ったパートナーグループとNPOが連携できるような仕組みについても県の部局間で話し合いが行われているのか。是非、連携をとってほしい。

「美し国おこし・三重」の観点から、市町においても横の連携をやり始めた。市町でも温度差はある。ニーズを捉えた交流の場を作っていくことが必要である。「美し国おこし・三重」が終了した後の制度、仕組みを作ってほしい。NPOとパートナーグループの位置付けの問題がある。県のNPO担当課はNPO法人の管理だけをやるのか、ちょっと曖昧なところがある。もっと踏み込んでほしい。中間支援機能の部分は、「美し国おこし・三重」の目指すところでもある。美しのネットワークは生かしたいネットワークである。もう少し突っ込んだ議論ができればよい。

3、意見交換

「中間支援組織の機能とあり方」について

（情報受発信の強化について）

大学生等への地域活動に関する効果的な情

報発信という課題があるが、具体的には誰がどのような形でするものなのか。学生は、まさしく中間支援組織からそんな効果的な情報がほしいと思っている。

NPO法人の活動を持続的にPRしてほしい。NPOを他の組織と繋げる必要がある。企業、商工会議所とかに「広報ツール」として持ってほしい。

NPOでも地域によって中間組織やあり方は違う。伊賀、名張には大学がなく、学生と繋がろうと思ったら、他地域へ行かなければいけない。学生が地域の情報を得る場所がない。市町主体の中間組織もあるので難しいと思うが、地域の中間支援組織に差があるので情報受発信等でバラツキを全体的に均一にできる仕組みを三重県が考えてほしい。

（人材育成について）

人材育成が一番お金がかかる。年間通してのスクーリングなどをお願いしたい。学生は、ゼミの先生に言われて、中身がわからないで社会参加をしているケースが多い。なぜ自分達が参加しているのかを意識できるシステムが必要である。

（財政面について）

学生は運営費が課題である。県の助成等を紹介してもらっている。

NPO活動、地域福祉の活動には資金が必要である。普段の生活の中で自然に寄付ができる仕組みを作っていかなければいけない。

活動しようにも、大学生はお金がない。助成金制度があっても、その情報は学生には分からない。ファンドレイジングの指導をできる人が必要である。

（その他）

情報発信の具体的なノウハウを持ち、しっ

かりと手法を伝えていける人材が不足している。連携マッチングでは、会議を2回実施しただけでネットワークができたとは言えない。目的をもった手法があるはず。ノウハウを持っている中間支援組織がほしい。三重県は、市町で中間支援組織があるところは「更に」、市町で中間支援組織がないところは「しっかり」サポートしてほしい。「テーマの縁」で繋がるのは、子育てグループ・自主的なグループ・間伐材のグループであったりする。理想は行政がフォローしなくてもいい自立したグループである。県の地域機関の話では、地域振興、文化が脇に追いやられたイメージがある。防災事務所も大事であるが、県庁の機能は広域の部分で、市町にない機能が必要である。地域事務所に「美し国おこし・三重」の地域専門員など団体とのパイプ役がいなくなるのはもったいない。是非、残してほしい。



次回の開催予定

今回は、今回いただいた意見を踏まえ整理し、課題から抽出される中間支援組織に求められる、「機能」・「あり方」を項目ごとに議論するため、平成26年2月下旬から3月上旬に開催する予定です。